

チェルノブイリ通信

<https://www.cher9.org/>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F
TEL/FAX: 092-260-3989
E-mail: jimu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク（CMN）は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

116

特集 ベラルーシ医療専門家による来日講演会

CONTENTS 今も続くチェルノブイリ原発事故の影響 / プレストの住民の健康を支えてきた移動検診システム / ベラルーシで増加している糖尿病ががんへ及ぼす影響 / 速報：ベラルーシ訪問団が帰国しました！ / コラム ベラルーシの一日 / 支援者のお名前とメッセージ



過去のチェルノブイリ通信でも登場していただいたチホン・マギリンさんとその家族。ミンスクにて

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座	01770-1-65328
	他の金融機関からは 一七九支店（当）65328
楽天銀行	ジャズ支店（支店番号201）（普）7017104
住信SBIネット銀行	法人第一支店（支店番号106）（普）1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」	

●特集● ベラルーシ医療専門家による来日講演会

チェルノブイリ被災地で活動する医師からの報告

2019年5月15日(水)～26日(日)までの期間、ベラルーシ共和国よりアルツール医師(ブレスト州立内分診療所所長)、ウラジーミル医師(同所・移動検診室室長)、マキシム医師(ベラルーシ共和国立卒後教育医学アカデミー・内分泌学講座准教授)が来日され、福島県福島市および郡山市での講演会、獨協医科大学(栃木県)への表敬訪問などが行われました。今号では講演の内容について報告させていただきます。

アルツール医師

今も続くチェルノブイリ原発事故の影響



■あの日、私たちの普通の生活が奪われました
初めに、33年前に起こったチェルノブイリの事故について簡単に説明します。

チェルノブイリ原発はウクライナとベラルーシの国境に近いところにあります。事故は33年前、1986年の4月26日に起こりました。人為的なミスにより原子炉の温度が高温になりました。減速材を戻しましたが、これが原因で出力が上がり爆発が起こりました。原子炉の上にあつた約1200トンの蓋が動くほどの大きな爆発でした。

火事が起こり、現場近くの消防署は全て出動して消火活動にあたりました。消防士たちが目にしたのは高さ1キロになる炎でした。その当時発電所で作業した方々、消火活動にあつた消

防士たちは皆亡くなりました。放射性物質は上空かなり高い所まで上がり、広い地域を汚染しました。

汚染された場所に住んでいた方々は強制移住の対象となり、それらの地域は現在人の立ち入りが禁止された国の管理地となっています。当時の政府は放射能汚染を隠しており、人々は普段通りの生活を行っていました。

約5年後、ベラルーシやその他の汚染された国々で甲状腺の問題が報告されました。これは事故後もいつも通り乳製品などの食べ物を口に、内部被ばくをしたためでした。不幸なことにその当時、風向きがベラルーシの方を向いており、事故で広がった放射性物質の約70%がベラ



講演会の様子
右からアルツール医師、マキシム医師、ウラジーミル医師



講演会后、希望者の触診をする様子。
痩せている人が多い日本人は、触診で異常の有無が
わかる可能性が高い

ルーシに降り注ぎました。その結果、ベラルーシで甲状腺疾患が多く現われるようになりました。

チェルノブイリと福島では被ばくのタイプが異なると私は考えています。チェルノブイリの事故の大きな問題は汚染された食べ物による内部被ばくでした。福島は外部被ばくです。内部被ばくは外部被ばくより10倍危険です。

■事故当時子どもだった人の甲状腺がんのリスクは高く、注意が必要です

現在、甲状腺がんを患っている人の大部分は成人で、子どもの甲状腺がんは少数です。事故当時子どもだった人が大人になり、がんになっています。

我々が特に注意して観察しているのは、「リスクグループ」と呼ばれる事故当時0〜18歳だった人達です。彼らが成長するとともに甲状腺がんの罹患率も上昇しています。

■最も多い乳頭がんは適切な治療をすれば普通の生活に戻ることができます

甲状腺がんの中で最も多いのは乳頭がんです。成人では男性より女性の方がはるかに多いのですが、子どもでは男女同じ比率です。このことは甲状腺がんがチェルノブイリ事故の影響を受けている証明になります。甲状腺以外のがんはほとんど認められていません。

幸いなことに乳頭がんは適切な治療をすれば、普通の生活に戻ることができます。実際に事故後、甲状腺がんの治療を受けた子どもたちも成長し、子どもを生み育て、普通に生活しています。これまで甲状腺の手術を受けた子どもたちの中で、がんで亡くなった子どもは2人だけです。

■親愛なる皆様へ感謝の言葉を申し上げます

甲状腺がんの早期発見・治療という成果を上げることができているのは、日本の専門家の方々が細胞診をはじめとする甲状腺検診の方法を教えてくださいましたからです。今回も私たち

を招いてくださったチェルノブイリ医療支援ネットワークの皆様には1997年からの長きにわたってサポートしていただいております。様々な支援物資の提供や、専門家を紹介していただき大変感謝しております。

90年代に私とウラジミール先生に細胞診の方法を教えてくださいました清水先生に感謝を申し上げます。先生のおかげで我々は多くの人々を救うことができました。また甲状腺手術に関しても大きく切開しない内視鏡手術を教えてくださいいただき、今では年間200件もの手術を行っています。この方法を我々は「シミズ」と呼んでいます。

プロフィール

グリゴロ・ヴィッチ・アルツール医師

1967年生まれ。

内分泌科専門医（甲状腺・糖尿病）。

赤十字移動検診プロジェクトのスタッフとして、2011年までにチェルノブイリ被災地であるベラルーシ共和国ブレスト州にて年間15000人の甲状腺がん検診を実施してきた。甲状腺検診者数25万人以上と世界的にもトップクラスの症例数を誇る。

ウラジール医師

ブレストの住民の健康を支えてきた移動検診システム

■移動検診チームの取り組み

州の保健行政と赤十字などの協力のおかげで1997年に医療検診号が発足しました。郊外に住んでいる方々のため20年以上にわたって移動検診を続けています。

我々の移動検診チームが取り組んでいる課題は、主に2つあります。

①チェルノブイリ事故の被害を受けたブレスト州の郊外の住民の検診を実施すること。

②リスクグループ（事故当時0～18歳だった人を優先した診療・検診を行うこと。

二次スクリーニングとして悪性腫瘍の疑いがある方々の穿刺吸引細胞診（以下、細胞診と略す）を行います。

その他に健康的なライフスタイルの形成による若年者の肥満及び2型糖尿病の予防も行います。また2型糖尿病の早期発見、その他の内分泌疾患（橋本病、バセドウ病）の発見も目的としています。

我々は事故当時未成年だったリスクグループに特別な注意を払っています。さらに、事故当時40歳以下であった観察（危険予備軍）グループの

方々も注視しています。

現在、リスクグループの方々は32～52歳で社会的に活動的な時期にあたり仕事も忙しく、実際に専門機関で検診を受ける時間を取ることができない方が多いです。我々はこのような方々を主に診療することを目的として郊外や企業を訪問して甲状腺に関する検診を行っています。



移動検診車（2012年冬）

20年以上続いてきた移動検診。時には雪の中検診へ向かうこともあります



過去の検診の様子

2014年までは検診時に尿検査や血液検査も行っていました。各地の診療所で検査ができるようになり、現在は検診時には行っていません

2014年までの移動検診では主に初期段階の甲状腺がんの症例を600件以上発見しました。そのうち30件が子どもの甲状腺がんでした。それぞれの患者には症状・治療の説明を行います。今後の治療を患者に説明するだけでなく、同時に

前向きな気持ちで治療に向き合えるよう精神的なケアもしています。

■甲状腺検診の流れ

甲状腺の検査方法は、①病歴を確認し、②頸部



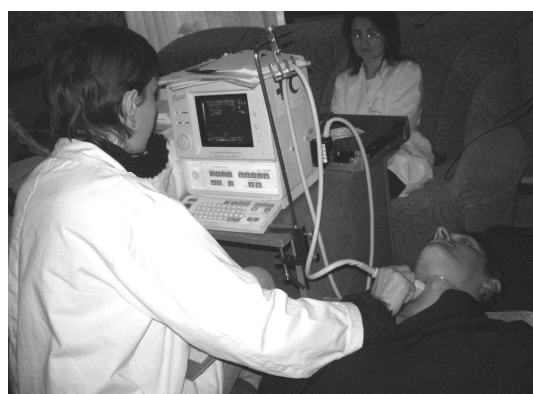
①問診

患者の病歴等を確認します



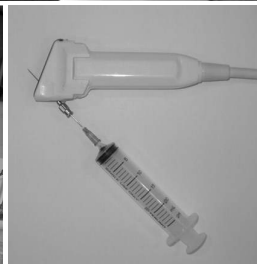
②触診

時間やコストがかからない最も簡単な検査
1cm以上の腫瘍や転移を発見することが可能



③超音波検査

甲状腺の輪郭が不明瞭な場合やギザギザしている場合は悪性の可能性がある



④穿刺吸引細胞診（細胞の採取）

- （上）超音波で腫瘍の位置を確認しながら針を刺し、細胞を採取します
（下）穿刺には専用のアダプターが必要ですが、腫瘍が大きい場合は超音波を使用しない場合もあります

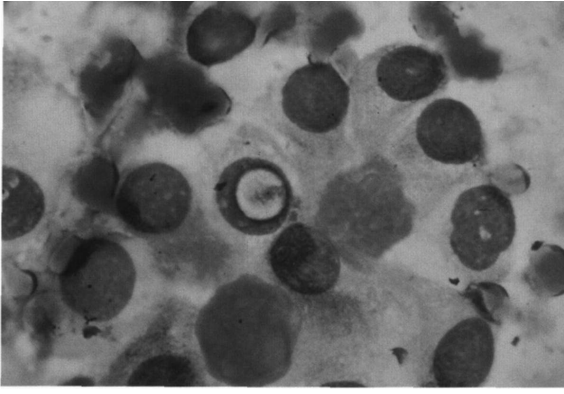
（けいぶ）を見て触診し、③超音波検査を行い、画像を確認します。④悪性の疑いがある場合は、必ず登録され、必要に応じて細胞診を行います。細胞診は日本の専門家の技術指導により導入されました。この場をかりて清水先生に感謝申し上げます。

細胞診はがんの疑いがあり、最大直径が10ミリ以上の腫瘍（しゅりゅう）・局所的な変化がある場合に行います。また結節などが見つかった場合は腫瘍や局所変化が10ミリ以下でも行います。細胞診に関しては条件があり、熟練した専門医が行う必要があります。超音波診断機と細胞診用の特別な機械が必要です。細胞診を行うにあたり、消毒・防腐処理を行う必要があり、細胞診

を行う場所は消毒などを行った環境でなければなりません。もしそういう場所があれば移動検診チームが訪問した際に細胞診を行うことができます。

細胞診で採取した標本の染色はどのような場所でも行うことができますが、標本の評価は専門家がを行います。現地で行うのが望ましく、病理学の専門家の同行が理想的です。

2004年～2013年の移動診断の結果、対象者の12%にがんが見つかりました。



③穿刺吸引細胞診

(右) 細胞を染色する様子。写真奥の容器に細胞の染色液が入っており、順番に漬けていくことで染色されます

(左上) 染色した細胞

(左下) 細胞を顕微鏡で観察する様子。がん細胞を見分けるためには高度な専門知識が必要です



左) 検診を受診しに来た家族



右) 甲状腺の手術を受けたイリーナさん。第一子妊娠中に甲状腺の腫れがわかり、2回目の出産後に手術を受けました

2014年から2018年までの移動診断では40506人を検診しました。その内13673人が初めて検査を受けた方々でした。また55%の患者に何らかの甲状腺疾患が見つかりました。つまり2人に2人は何らかの甲状腺疾患をかかえているという事で、非常に高い数字です。このうち1000人以上が細胞診を受け、115人に甲状腺がんが見つかりました。

ブレスト州は検診の受診率が98%とベラルーシの中でも最も高い数字です。これは移動検診車のおかげです。以前は超音波検査で異常が見つかった場合、ミンスクまで精密検査を受けに行く必要がありました。そのため、農村部から行くには高額となり診察をあきらめる人がいました。移動検診車ではその場で細胞診もできるため、多くの人が検査を受けることが可能になりました。

プロフィール

スィヴダ・ウラジミール医師

1960年生まれ。

内科医。超音波診断専門医。

一年のうち2/3以上は、ブレスト州内各地で検診を行っている。チェルノブイリ原発事故の初期からを知る現場の医師。

ルシク・マキシム医師

1979年生まれ。

内分泌学医。超音波診断医、麻酔・蘇生術医。分子生物学（長崎大学にて2006年習得）

内分泌疾患・代謝疾患・腫瘍疾患に関した発がんのメカニズム研究、甲状腺がんの初期診断の方法論改善、診断・治療アルゴリズムの開発を行う。

マキシム医師

ベラルーシで増加している糖尿病ががんへ及ぼす影響

■最新医療を学ぶ卒後教育制度

私はベラルーシ国立卒後教育医学アカデミーの准教授を務めています。日本でいうと大学院にあたります。卒後教育は、ベラルーシ、ヨーロッパの医療制度に基づくもので、医師免許を取得して5、10、15年で再研修を行い最新の医療について学びます。また、ベラルーシ全土の医師への研修だけでなく、医療にかかわる新しい分野の研究も行っています。今日は検診という面ではなく、最新のベラルーシの医療についてお話しします。

■増加傾向にある2型糖尿病

ベラルーシでは内分泌疾患が増加しています。これは世界的にもみられる傾向です。内分泌疾患とは甲状腺疾患・糖尿病・その他さまざまな内分泌障害などです。その中でも糖尿病は非常に危険な病気です。世界中で肥満傾向の人が増加しており、肥満は糖尿病を引き起こす原因の一つともなっています。糖尿病は自覚症状が出るまで気が付きにくく、約50%の糖尿病患者は自分が糖尿病であることに気づかずに生活しています。糖尿病は、循環器系の異常やがんに関係があり、甲状腺障害を誘発するといわれています。

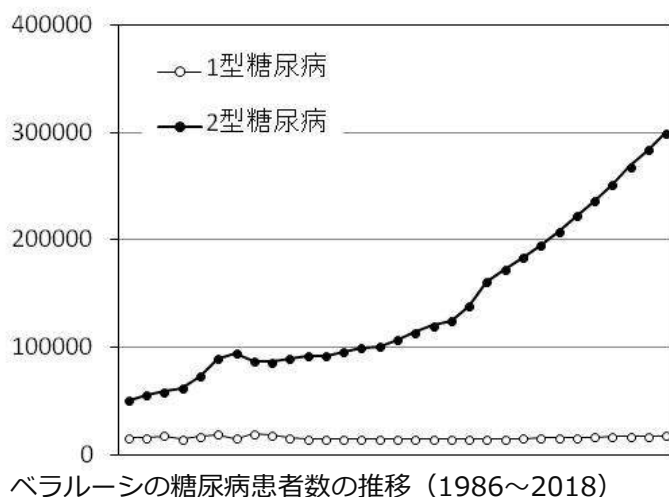


■肥満とがんの関係

1986〜2018年のベラルーシの糖尿病の患者数は、2型糖尿病で増加傾向にあります。2型糖尿病患者の主な死因の中で、一番多いのは循環器系の疾患で、次に多いのががんです。2017年は糖尿病患者の死因の約12%の死因ががんでした。

肥満状態ががん予防の妨げとなる可能性があることがわかっています。（＊）

糖尿病と甲状腺がんの関係に着目すると、男性の甲状腺がんのリスクを1としたところ、男性の糖尿病患者は2.3、女性の糖尿病患者は7.3にもなります。女性では、子宮がんや乳がんに関しても糖尿病で発がんリスクが高まることがわかっています。糖尿病は甲状腺に限らずその他のがんの発がんリスクも高めるのです。我々がブレストの専門家と調べた結果、ベラルーシでは「女性／48歳以上／肥満」という条件にあてはまる人がよりがんになる可能性が高いとわかりました。事故後30年以上経ってしまったということもあ



(*) 森神 聡

り、その甲状腺がんがチェルノブイリの事故の影響だけだということを証明することは困難ですが、我々は今現在もその原因を探し続けています。

＊解説

がん細胞と脂肪細胞は同じシグナルを使用しています。肥満になり脂肪細胞が増加すると、脂肪細胞のシグナルも増加します。その結果がん細胞のシグナルが脂肪細胞のシグナルに紛れてしまい、がん細胞への攻撃が難しくなってしまいます。したがって肥満はがん予防の妨げになります。



質疑応答

先生方の講演終了後は、出席者から多くの質問が寄せられました。当日の質疑応答の一部を紹介します。

■チェルノブイリ原発事故後、ベラルーシではどのような対策がとられたのでしょうか？
また、私たちが今からでもできる対策は何かありますか？

汚染地域でも生活について細かい指導が行われました。具体的には、立ち入って良い場所と悪い場所の指示や牛を放牧させて良い場所、農業ができる場所なども示されました。

今からでもできる対策は、普段からヨウ素をしっかりと摂取しておくことです。ヨウ素は主に海藻類などに含まれています。

また研究段階ではありますが、ベラルーシでは甲状腺に異常が認められる人はビタミンDが不足傾向にあることがわかっています。ベラルーシで日照時間が短いことが関係している可能性があります。ビタミンDを摂取することも甲状腺がんの対策になるかもしれません。まとめると、バランスの取れた食生活を心がけることが大切だということです。

■自分ののどに針を刺すのは、大人でも怖いと感じます。子どもにとって細胞診は耐えられるものですか？

穿刺吸引の針は非常に細いので、一般的には子どもの細胞診も麻酔なしでおこなっています。実際子どもによっては全く何も感じないということもあります。子どもを説得するのは大変ですが、ご両親の協力のもと行っています。

■甲状腺がんになった子どもたちの現在が気になります

検査はどのくらいの頻度で行われているのでしょうか？

ベラルーシで甲状腺の手術を受けた子どものうち、亡くなった方は1%以下です。ほとんどの方たちは結婚して子どもを産み、現在も生活しております。

多くの人数に対して、質の高い検査を行うため2年に一度の検査を行っています。経済的な面で考えると、必ずしも全員に超音波検査をする必要もなく、医者が触診するだけでも効果があると考えています。



■甲状腺がんになった子どもたちへ何か生活指導などは実施されていますか？

定期的な検診と薬の投与だけです。それ以外に関しては他の子どもたちと全く変わらない生活・人生を送っています。

■ベラルーシの医療制度について教えてください。健康診断は毎年実施されているのでしょうか？

医療サービスは無料で国の社会保障として提供されています。国の保健省の指導の下、健康寿命を延ばす取り組みが行われています。ベラルーシの平均寿命はヨーロッパの中でも低く、日本よりはるかに低いです。そのため、国により毎年健康診断を受けるよう指導されています。年齢により検査項目は異なり、年齢が若いほど少ないです。

■事故後に生まれた人の甲状腺疾患数も増え続けているようですが、この原因はわかっているのでしょうか？

原因についてはまだはっきりとわかっていません。ビタミンDの欠乏が甲状腺疾患患者の一部に認められることから、ビタミンDに関連する遺伝子も調べましたが、特に異常は認められていません。現在は生活様式が関係しているのではないかとという仮説のもとに、研究を進めているところです。

速報

ベラルーシ訪問団が帰国しました！



2 019年9月14日から10月1日までの
18日間にわたってベラルーシを訪問しま
した。

今年の訪問では、医療支援品等を届けるだけで
なく、長年の使用により老朽化が進んでいたブレス
ト州の移動検診車の新車購入代金送金関連の手
続きも行いました。これからも州都だけではなく
郊外の農村部に住む方々にも検診を継続的に受
診することができるよう、新しい移動検診車を活
用していただきたいと思います。

また金地病院 清水一雄先生より寄付してい
ただいた甲状腺内視鏡手術の器具一式をブレスト州
立病院の先生方へお渡ししました。

ベラルーシ訪問の最後には数年ぶりにのぞみ21
工房を訪問することができました。今年はチェルノ
ブイリ医療支援ネットワークとのぞみ21工房の友
好20周年ということもあり、記念の交流会を開
催していただきました。工房メンバーにもいろい
ろなお話を伺うことができ、とても楽しい時間を過
ごしました。

ベラルーシ訪問の詳しい報告は次号以降の通信で
紹介していきますので、どうぞお楽しみに！



ホームページ リニューアルのお知らせ

チェルノブイリ医療支援ネットワークのホームページを
リニューアルしました！

過去の通信に加え、通信で紹介できなかった田中さんの
「ミンスクの日」もカラーで公開しています。

お時間のある時にぜひご覧ください。

*リニューアルに伴い、URLも変更になりました →→→ <https://cher9.org/>



6月だより

第2回 ヨーロッパ競技大会



ディナモ・スタジアム入口

2019年6月、第二回ヨーロッパ競技大会がミンスクで行われました。2020年東京オリンピックへの予選もかねているこの大会は、近年ベラルーシで行われた国際行事のなかでも最も大きなイベントのひとつです。大会開催中の6月21

日〜30日の間には、50ヶ国4000人以上の選手が15競技で競い合い、多くの国々から訪れた観客でにぎわったミンスクは大変な盛り上がりを見せていました。

なかでも印象に残ったのが大会ボランテアの元氣一杯の働きぶりでした。鮮やかなブルーとホワイトのウェアに身を包んだボランテアの若者達が町中に広がり、訪問客を各試合会場に笑顔で案内します。実に106ヶ国2400人もの希望者が8000人のボランテア枠に応募しました。

6月28日(金)、陸上競技の決勝種目が行われたディナモ・スタジアムを訪れました。2万人以上が収容できるこのメイン会場は、開会式や閉会式の舞台ともなりまし

た。競技場に近づくとき大きな手形のグループをはめたボランテア達がハイタッチをして迎えてくれ、楽しい気分になってくれます。大会のマスコットキャラクターであるキツネは『友情』を意味するのだと明るく説明してくれました。

白い雲と青い空が垣間見える美しい屋外会場で開かれた競技会は夕方6時から夜の9時近くまで続きました。その間、人々の熱気と同様に日が沈むことはありませんでした。今回の陸上競技会は様々な種目を競うチーム対抗戦があります。最終種目の男女混合リレーでは地元ベラルーシとウクライナのチームが金メダルをかけてデッドヒートを繰り広げ、観客の盛り上がりは最高潮に達しました。ベラルーシ・チームは惜しくも銀メダルとなりましたが、出場した全選手の手頑張りにあたたかい拍手が送られました。

競技全体を通して開催国のベラルーシは金メダル・メダル総数ともにロシアに次いで2位と健闘を

見せました。大規模なイベントではありませんでしたが、大会期間中もミンスクの町はいつものようにきれいで、和やかな雰囲気が保たれていました。近代的に進化していくミンスクの新たな姿を世界中に発信する催しともなりました。2019年は100の国際スポーツ・イベントが開かれるベラルーシですが、今後も世界の舞台での活躍がよりいっそう期待できます。過去にはチェルノブイリ原発事故による深刻な放射能汚染の悲劇を経験、そして乗り越えてきたベラルーシ共和国。平和を愛してきた国だからこそ今日の成功が一段と輝きます。



競技場の様子

8月日より

若い世代が考えるチェルノブイリ



インタビューに協力してくれた
カリナ・メレシコさん
写真はベラルーシ大学ジャーナ
リズム学部の入口

こんにちは！ミンスクから今回お届けするのは、チェルノブイリ原発事故を実際には体験していない若い世代へのインタビューです。協力してくれたのは、ベラルーシ国立大学ジャーナリズム学科三回生で現地の国営ラジオ局で研修中のカリナ・メレシコさんです。彼女にチェルノブイリ事故について知っていること、知らされてきたこと、そして今の心境を語ってもらいました。

「私は1999年生まれでビテプスク出身ですが、86年にチェルノブイリで起きた原発事故については物心ついた時から知っていました。チェルノブイリ事故についてどこで誰から初めて聞いたのかは明確に思い出せませんが、子どもの時に祖母がよく話していたのは覚えていいます。彼女は学校で話されるよりも多くのことを語ってくれました。

私はベラルーシの中でも放射能の

汚染被害が少なかったとされるビテプスク生まれなので、チェルノブイリ原発事故について深く考えることはあまりありませんでした。ただ、地元の小学校でもチェルノブイリ事故が起きた日のことは教えられてきたし、歴史の教科書にもその悲劇のことはつづられています。学校に通う小さな子ども達には【チェルノブイリを振り返る時間】も設けられています。

そして、現在の私達が自国で起きている放射能問題にあらためて注意を向けるようになるきっかけが、アメリカの最新テレビシリーズ《Chernobyl》(2019)の放送です。最初の2話(全5話)を見ましたが、リアリティあふれる内容で事故の日のことが描かれています。事故発生後、最初の夜中に住民が体験した様子の描写からは、その恐ろしさが深々と伝わってきます。私達の国でもこのシリーズは子どもから大人まで幅広い年齢層に多く見られる話題作となりました。」

自身の幼年時代から20歳現在までのチェルノブイリ原発事故に対

する受け止め方とその変化、今なおも残る放射能汚染への複雑な思いも語ってくれたカリナさん。現在、研修生として所属するラジオ放送局の番組テーマにチェルノブイリ事故を取り上げるなど、母国の放射能問題に真剣に向き合うジャーナリストとして成長しました。

このように様々なかたちで彼女たち若い世代には、あの悲劇を二度と繰り返してはいけないという教訓は伝わっていきます。なかなか消えない放射能とその恐怖心ですが、必要な情報を交換しながら協力して解決に向かっていく近代の若者の姿勢にベラルーシの明るい未来が見えます。

田中仁(たなかひとし)



ベラルーシ国立大学在学中から、フリーランスのジャーナリスト、通訳として国内外の新聞や雑誌で活躍中。ミンスク在住。

たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計

＊活動支援金	535,597円
＊のぞみ21カンパ	457,597円
＊雪だるま3号カンパ	15,000円
＊東日本支援カンパ	5,000円
＊おまかせカンパ	32,000円
	26,000円

(2019年6月～9月分の寄付内訳)

●口座受付寄付

浅原望樹 天羽生豊 池永修 榎本みつ枝 大園広子 沖
佐和子 小野直子 梶原孝子 佐々木悦子 貞池和恵 定
村洋子 佐藤久美 澤野重男 関根敏子 高橋武三 田中
直子 鳥巢多加子 中島乃婦子 野中孝子 野村文子 本
田美穂子 森戸春江

〔都道府県別〕

【福島県】1名	【東京都】2名	【千葉県】1名
【静岡県】1名	【愛知県】2名	【兵庫県】2名
【鳥取県】1名	【島根県】2名	【広島県】3名
【山口県】4名	【福岡県】26名	【佐賀県】1名
【長崎県】1名	【熊本県】2名	【大分県】4名
【鹿児島県】1名		

計54名(匿名含む)

※通信へのお名前掲載をご承諾いただいた方のみ、お名前を掲載させていただきます。

●月々の定額寄付(マンスリーサポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井
上礼子 内野千鶴子 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久
保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈
子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗
河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛
大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津
悠子 斎藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐
藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤
展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千
鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原
桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野
沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初
子 福本勲子 藤本孝子 湊田三輝 古川恵子 松尾智恵子
松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮
野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中
陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子

計117名(匿名含む)

貴重な寄付をお寄せいただき、どうもありがとうございます。
皆さまよりお預かりしたご寄付は、チェルノブイリ被災者医
療支援、福祉工房のぞみ21支援、移動検診車雪だるま3号
購入の積立、東日本震災被災者支援、事務費用等にあってさ
せていただきます。

編集後記

秋の到来を肌で感じています。9月14日から10月1日までベラルーシ共和国を訪問しました。次号からの現地
レポートもどうぞお楽しみに。ちなみに昨年は穏やかな気候でしたが、今回は最低気温が1℃。もしかして、と
防寒の準備はしていましたが、それが役立つとは思いませんでした。(H・K)

お知らせとお願い

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●山田英雄さんの記事を読みました。得難い人物を亡くした悲しみが、国境を越えて深い事をしみじみ感じました。心からお悔やみ申し上げます。●少額ですがよろしく願います。●お身体を大切にされて頑張ってください。●少額ですが少しでも応援になれば...ヒロシマからチェルノブイリへ。核被害のない世界を祈って。●少しですが、お役立て下さい。●少しですが、お働きに感謝いたします。●皆さんの活躍がチェルノブイリの子どもの笑顔につながります。ご活躍をお祈りします。●この支援の和がひろがりますように。一日も早い復興を祈っています。

振込

用紙は毎号同封しています。でも振り込みできるように、毎号同封してほしいというご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。

月々

300円から、手軽にチェルノブイリ支援！
ゆうちょ銀行で毎月26日に指定の額の募金を自動引き落とし。マンスリーサポーター募集中です。手続きは簡単。ホームページが事務局まで。

住所

を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付がご不要の場合は、お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

活動の様子や通信バックナンバーなどはホームページをチェック！

チェルノブイリ 医療支援

検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています